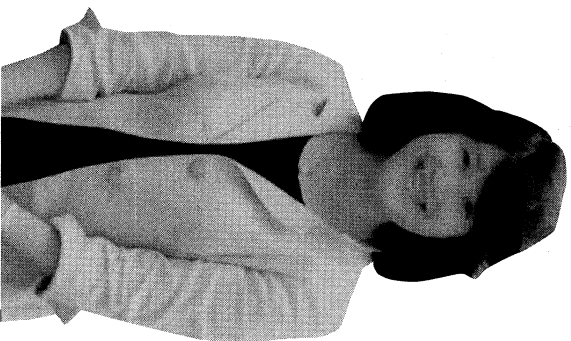


# 演題 人が育つ・人を育てる～必要条件としての自尊心～

講師 日浦 直美 氏 (関西学院大学教育学部教授)



(学歴) 関西学院大学文学部英文学科卒業  
聖和大学大学院教育学研究科(幼児教育学専攻)修士課程修了  
大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了(人間科学博士)

(職歴) 大学卒業後、企業・大病院での秘書、幼稚園教諭を経て  
聖和大学助手、講師、助教、教授、同大学院教授、  
関西学院大学教育学部教授、同大学院教育学研究科教授、  
世界幼児教育機構(OMEP)日本委員会 副会長、  
日本乳幼児教育学会 理事、寝屋川市子ども子育て会議委員長、  
西宮市社会福祉審議会委員 民生委員専門分科会長、  
学校法人聖母女学院理事、国立大学奈良女子大附属幼稚園学校評議員

(その他) 専門は幼児教育学・保育学、特に乳幼児の人間関係、子育て支援、多文化共生時代の保育課題を  
中心に研究を行っている。  
(主な著書)  
「寛容性の涵養に関する幼児教育学的考察—可視的差異に対する幼児の反応と反偏見教育的  
アプローチの分析—」風間書房、「保育者論:保育者の探求と創造」光生館、「子どもの育ちと人との  
かわり」宣協社、「幼稚園・保育所実習」光生館、「保育原理」(第12章 家庭・地域との連携)全国社  
会福祉協議会、「家庭援助論:新現代家族の創造と共生」光生館、「多文化共生社会の保育者:ぶっ  
かってむたいじょうぶ」北大路書房(共訳)他

## 講演要旨

唐突だが、奈々子 お父さんは お前に / 多くを 期待しないだろう。 ひどが / ほかからの期待に応えようとして  
どんなに / 自分をだめにしてしまおうか お父さんは はつきり / 知ってしまったから。  
お父さんが / お前にあげたいものは 健康と / 自分を愛する心だ。(中略)  
これは、今年1月に亡くなった詩人の吉野弘さんの詩の一節です。この詩の最後は以下のような言葉で締めくくられます。  
お前にあげたいものは、香りのよい健康と / かちとるにむづかし / はぐくむにむづかしい  
自分を愛する心だ。

社会・経済のグローバル化によって、私たちは価値観が多様化した時代を生きています。また、子どもをめぐる環境は、少子化、都  
市化、情報化、核家族化といった現象によって、一昔前とは大きく変化しました。私たちは、いったい何を大切に生きていったらよ  
いのか、そして、どのようなことを次世代に伝えればよいのかと、考え込んでしまいます。今、まさに自分の子育てをしている人々、子  
どもの教育に携わっている人々は、迷いのうちに、ともすれば、情報の洪水の中でその指標を見失いそうになることでしょう。

しかし、どのような時代にも、どのような年代においても、人が育つ上で、また、人を育てる上で最も大切にしたいものがあります。そ  
れは、人が育つ上で、また、人を育てる上での必要条件としての自尊心です。  
家庭内の、あるいは家庭外の教育という営みにおいて、自尊心がなぜ大切であるのか、そのことを、家庭内外の教育の場で起こ  
っている様々な事象を通して、みなさまと一緒に考えてみたいと思います。

日時・場所: 【松山会場】 2014年6月7日(土) 14時半～16時

伊予鉄会館 5階クリスタルホール

【東予会場】 2014年6月8日(日) 15時半～17時

西条国際ホテル

入場料: 無料 (誰方でも沢山御来聴下さい)

主催: 関西学院同窓会(松山・東予・今治)支部

後援: 愛媛県教育委員会、松山市教育委員会、西条市教育委員会、松山市青少年育成市民会議、

NHK松山放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛新聞、

朝日新聞松山総局、産経新聞松山支局、読売新聞松山支局

問合せ: 松山 大亀(090-7625-2729) 東予 鎌江(090-8976-0687)

(事務局)

※文化講演会: 関西学院同窓会の地域貢献活動の一環として毎年ご好評頂いており、今回、松山支部では21回目、東予支部では15回目となります。